

生成AIが特許事務所に 与えたインパクト ～生成AIにより業務は変化するか～

大澤特許事務所

弁理士 大沼 加寿子

- きっかけ
- 特許事務所の仕事
- 特許事務所のコア業務に生成AIを用いる場合の留意点
- 特許事務所の業務内容は変化するか

きっかけ

自民党で開催された「AIの進化と実装に関するプロジェクトチーム」の第2回会議（2023年2月17日）において、東京大学の松尾豊教授によって公開された資料「AIの進化と日本の戦略」において、以下の記載があった。

- 「目的に特化した」学習をさせれば、専用のChatGPTが作れる
 - ホワイトカラーの仕事のほとんどすべてに何らかの影響がある可能性が高い（恐らく2～3年で身近にも変化が）
- （引用：AIの進化と日本の戦略）

特許事務所内の仕事（特許、商標）

	特許事務所内の仕事	生成AIへの代替の可能性
コア	発明の把握	代替困難（クライアントからの聞き取り必要）
コア	特許調査	現在でもデータベースを用いた検索→生成AIを用いることによって時間短縮、精度向上
コア	出願：明細書作成	文章作成の時間短縮、精度向上
コア	出願：図面作成	図面作成の時間短縮、精度向上
コア	中間処理対応	文章作成の時間短縮、精度向上
コア	商標、指定商品・役務の検討	代替困難（クライアントからの聞き取り必要）
コア	商標調査	現在でもデータベースを用いた検索→生成AIを用いることによって時間短縮、精度向上
コア	出願：願書作成	文章作成の時間短縮、精度向上
コア	中間処理対応	文章作成の時間短縮、精度向上
	バックヤード業務（事務手続）	時間短縮、精度向上

コア業務に生成AIを用いる場合の留意点

聴き取り

内容把握

プロンプト

データの
信頼性

情報漏洩
/守秘義務

成果物の
信頼性

特許事務所の業務内容は変化するか

- 現在、事務所で行っている業務は今後も残る。
- 業務内容の各要素の重要度は変化する。
- ツールとして上手く活用できるか。
- 初期費用の問題。